

阿部正寧

あべ・まさやす

備後福山藩藩主(第6代)

経歴

生:文化6年(1809年)10月24日、江戸藩邸生まれ

没:明治3年(1870年)7月1日没、享年61歳

文政7年(1824年)	16歳	対馬守
文政7年(1824年)	16歳	従五位下
文政9年(1826年)8月24日～天保7年(1836年)12月25日	18～28歳	福山藩主(第6代)[在任10年8ヶ月]
—	—	伊予守
天保2年(1831年)～天保7年(1836年)12月25日	23～28歳	奏者番

生い立ちと学業、業績

幼名は寛三郎、字は君成、号は不争斎。はじめ対馬守、のち伊予守、従五位下。

阿部正寧は、文化6年(1809年)10月、前藩主5代阿部正精の第3子として江戸藩邸で生れた。

母は井出氏。

文政9年(1826年)8月24日、18歳で父正精の遺領を襲封し、天保2年(1831年)奏者番に任じられたが、元来病弱であったため辞職し、さらに天保7年には致仕して弟阿部正弘に家督を譲っている。

「仮山泉石ヲ愛賞シ、時ニ国家ヲ弄シ以テ一生ヲ了ス」と阿部家伝にあり、正寧の時代に入ると、治政は無気力な状態となり、藩政に積極的に取り組む姿勢は窺えない。

義倉の文化活動もなくなり、洪水や凶作に見舞われたのである。

隠居後は不争斎と号して専ら文筆に親しみ、明治3年(1870年)7月1日に、61歳で没している。

常徳院寛譽主善元良と諡し、江戸浅草西福寺に葬られた。

現在は東京都台東区谷中に墓所がある。

室は肥前佐賀藩主鍋島齊直女。(鐘尾光世、歴史資料室学芸員)

誠之館所蔵品展示品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
00011	阿部正寧 書	一行五言詩句「眉痕」	—	文政2年(1819年)
05304	阿部正寧 書	七言絶句「偶向清流」	—	文政12年(1829年)
t0480	阿部正寧 書	七言絶句「一雨和晴」	—	文政13年(1830年)
00012	阿部正寧 書	和歌「四方迺海」	—	—
t1280	阿部正寧 書	和歌「春はいつ」	—	—
07271	福山城博物館編	『福山阿部家展－受け継がれた武家資料－』	福山城博物館	平成27年

出典1:『阿部氏十代展－福山の藩政と教育－』、77頁、福山市立福山城博物館編刊、平成7年4月8日

出典2:『福山阿部家展－受け継がれた武家資料－』、福山城博物館編刊、平成27年9月19日

出典3:『福山の今昔』、108頁、浜本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年3月3日更新:肩書●2005年3月16日更新:本文●2006年2月21日更新:経歴●2006年4月6日更新:タイトル・所蔵品●2007年10月9日更新:経歴・関連情報●2008年1月23日更新:本文・関連情報削除●2008年12月24日更新:経歴・誠之館所蔵品●2010年3月10日更新:経歴・本文・出典●2010年10月5日更新:誠之館所蔵品●2015年2月6日更新:誠之館所蔵品展示品●2015年12月7日更新:レイアウト・誠之館所蔵品展示品・出典●